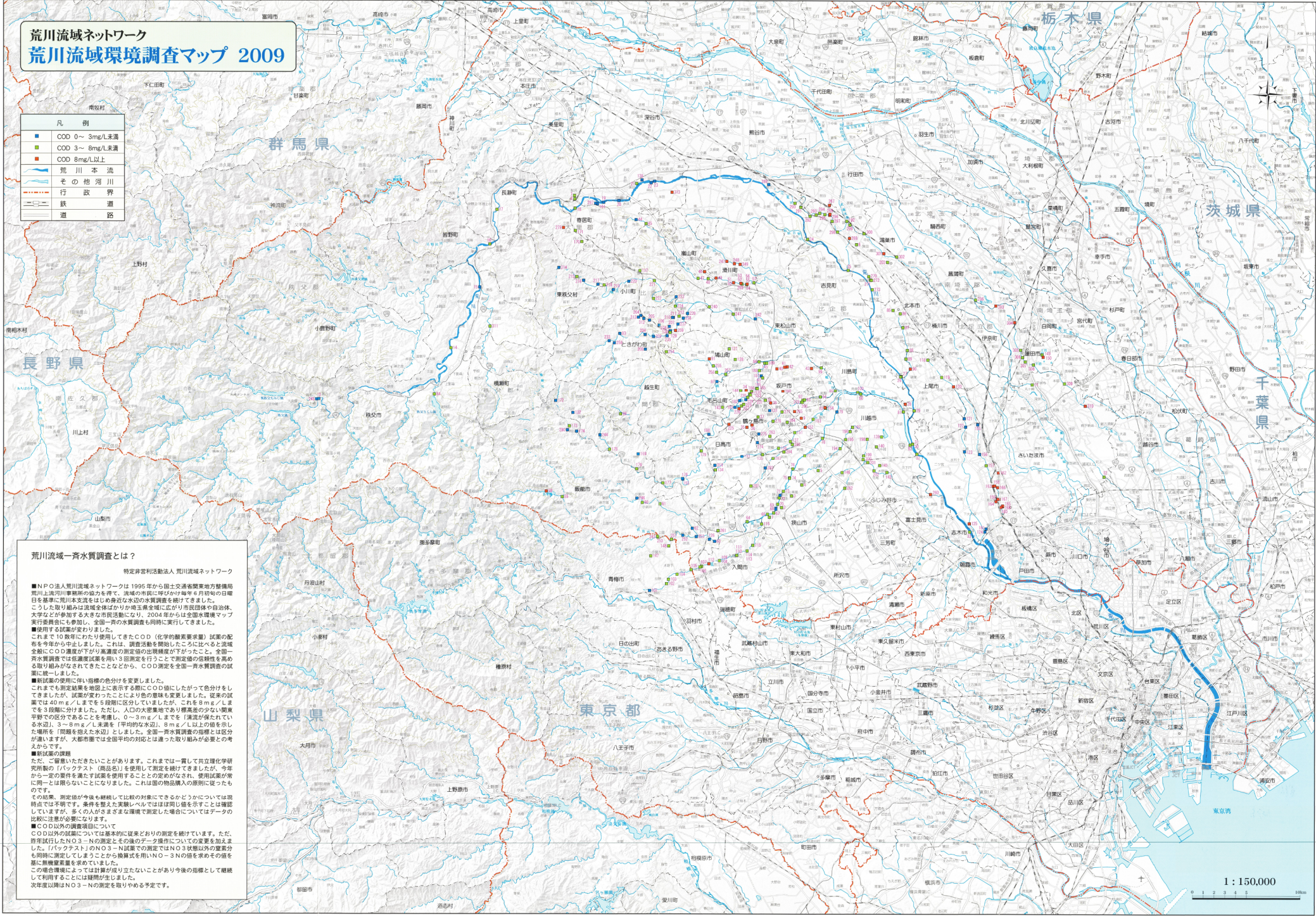


荒川流域ネットワーク 荒川流域環境調査マップ 2009

凡 例	
■	COD 0~3mg/L未満
■	COD 3~8mg/L未満
■	COD 8mg/L以上
	荒川本流
	その他河川
	行政界
	鉄 道
	道 路



荒川流域一斉水質調査とは？

特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク

■NPO法人荒川流域ネットワークは1995年から国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所の協力を得て、流域の市民に呼びかけ毎年6月初旬の日曜日を中心に荒川本支流をはじめ身近な水辺の水質調査を行っています。こうした取り組みは流域全体から構成される流域ネットワークが市民団体、大学などが参加する大きな市民活動となり、2004年からは全国水環境マップ実行委員会にも参加し、全国一斉の水質調査も同時に実行してきました。

これまで10数年にわたり使用してきたCOD（化学的酸素要求量）試薬の配布を今年から中止しました。これは、調査活動を開始したころに比べると流域全般にCOD測定が下がり高濃度の測定値の出現頻度が下がったこと、全国一斉水質調査では低濃度試薬を用いる回数定を行うことで測定値の信頼性を高める取り組みがなされてきたことなどから、COD測定を全国一斉水質調査の試薬に統一しました。

■新試薬の使用に伴い指標の色分けを変更しました。これまでCOD試薬を厳密に指示する際にCOD値にしたがって色分けをしてきましたが、試薬が変わったことにより色の意味も変更しました。従来の試薬では40mg/Lまでを5段階に区分していましたが、これを8mg/Lまでを5段階に分けました。ただし、人口の水密集地であり高濃度の少ない農業平野での区分であることを考慮し、0~3mg/Lまでを「清流が保たれている水辺」、3~8mg/L未満を「平均的な水辺」、8mg/L以上の値を示した場所を「問題を抱えた水辺」としました。全国一斉水質調査の指標とは区分が異なりますが、大都市圏では全国平均の対比とは異なり取り組みが必要と考えられます。

■新試薬の課題
ご留意いただきたいことがあります。これまで一貫して共立化学研が発売していた「パックテスト（商品名）」を使用して測定を続けてきましたが、今年から一定の要件を満たす試薬を使用することの定めがなされ、使用試薬が常に同一とは限りなくなりました。これは国の物品購入の原則に従ったものです。

その結果、測定値が今後も継続して比較の対象とできるかどうかについては現時点では不明です。条件を整えた実験レベルではほぼ同じ値を示していますが、今年から一定の要件を満たす試薬を使用することの定めがなされ、使用試薬が常に同一とは限りなくなりました。これは国の物品購入の原則に従ったものです。

■COD以外の調査項目について
COD以外の試薬については基本的に従来どおりの測定を続けています。ただ、新試薬したNPO-10の高濃度とその他のデータ集計についての調査が追加された「パックテスト」のNO3-N試薬での測定ではNO3-N以外の調査項目も同時に測定してしまうことから換算式を用いNO3-Nの値を求めその値を基に換算質量を求めていました。この換算値によっては計算が成立しないことがあり今後の指標として継続して利用することには疑問が生じました。次年度以降はNO3-Nの測定を取りやめる予定です。

この地図の作成に当たっては、国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所より提供いただいたデータに基づき作成しました。また、この地図の作成に当たっては、国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所より提供いただいたデータに基づき作成しました。

制 作：特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク
制作協力：国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所／株式会社中央ジマックス